

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成 27 年度第 1 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

I. 日 時：平成 27 年 7 月 1 日(水) 18:00~20:00

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、高岡委員、和田委員、中西委員、本村委員、金子委員 (Skype)

松田アドバイザー

事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

1. 情報リテラシー教育ガイドラインの見直しについて

昨年度から検討を進めていたガイドラインの更新案について、課題発見・解決、価値創出を目指す情報教育の実践力を目指すように戦略大会で紹介することに向けて以下のような議論がされた。

- ・ 大学でどのようにリテラシー教育を展開、実践すれば良いのかがわかるような提案にする必要があるのではないか。内容やコンセプトが授業で展開できるか掘り下げる必要がある。価値を創出するための手立てを考えることができるイメージが必要ではないか。
- ・ 到達目標 A は、問題解決の枠組みで専門分野の授業での実践を考慮しており、到達目標 BC で、情報科学、情報社会に参画する態度の理解を網羅させている。
- ・ 価値を創出する手立てを考えられるレベルではないか、リテラシーはどの部分まで関わるのかを考えてはどうか。
- ・ 学修する上での動機づけとして、何のために何がまとめられるのか意識した授業で目的を意識させる必要があるのではないか。
- ・ リテラシー教育を担当する教員には、どのように教育すべきかわからないのではないか、教材などが求められるのではないか。
- ・ 新しい価値を考えることは、到達点と思われるが大学に応じた授業例がテンプレートの形などで 2, 3 例あると参考になるのではないか。例えば、情報の授業以外で実践されていることで初年次教育での展開や一大学ではできないことを大学間や企業含めた学修の場を点案してはどうか。
- ・ カリキュラムポリシーの関連付けができないか、初年次でここまで、卒業までにここまで身につけるなど初年次教育で終わらせず、専門教育での活用を図る必要がある、具体的な例示が求められるのではないか。
- ・ どのような意識を持つべきか、なぜ情報技術が必要なのか、問題を調べて広がりができるプロセス、情報の入手先・信頼性の確認など理解させることが求められるのではないか。
- ・ 教育学修方法の例示に、学年進行の工程表の絵などのイメージが必要ではないか、例えば、到達度をルーブリック化することで表現できないか。大学で選択ができるような形が望まれるのではないか。
- ・ 到達目標のどこかに統計的な手法を用いた解析を含めてはどうか。
- ・ 到達度の表記に関しては、観点ではないかの意見があったが到達度にすることにした。
- ・ 「リテラシー」としたタイトルについては、今回の内容から「情報フルエンシー」として、

生涯に情報を活かせるようなイメージで広がりを持たすべきではないか。現状のリテラシーは、多くは情報技術のスキル修得部分にあたり、知的能力や情報技術の概念を含めたものがフルエンシーに相当し、情報を駆使して問題発見にあたる部分ではないか。

- ・ 今回の見直しで、今までの概念と違うことをどこかに記述する必要がある。情報リテラシーは技術的な要素が高い傾向にあったが、生涯にわたって情報を活用して考えられること、高次のものを目指す必要があるのではないか。

#### V. 今後の予定について

- ・ 次回は7月29日18時に開催し、検討を継続することにした。
- ・ ガイドラインのとりまとめは、① ガイドラインの文書、② ルーブリック、③ 授業展開の例について、担当に分けて資料を作成することにした。